

令和 3 年 5 月 16 日現在

機関番号：33908

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K14024

研究課題名(和文)ニューカマー二世世代のエスニシティとジェンダーに関する基礎的研究

研究課題名(英文)A Basic Study on Ethnicity and Gender of the Second Generation of Newcomers in Japan

研究代表者

三浦 綾希子(Miura, Akiko)

中京大学・教養教育研究院・准教授

研究者番号：90720615

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本で育ったニューカマー二世世代の抱える課題をジェンダーの視点から分析することを目的とした。フィリピン系、タイ系の二世世代を中心に22名の若者に対して半構造化インタビューを行い、また、かれらの人間形成に影響を与える一世代20名に対してもインタビュー調査を行なった。その結果、日本社会にある外国人女性に対するステレオタイプや出身国のジェンダー規範などを背景に、二世世代の女性たちが一世代から厳しく性の管理をされることが明らかとなった。また、シングルマザー家庭の場合、母親たちがエスニックコミュニティの中で子育てを行うことが多いため、母親の文化継承が積極的になされることなどが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、ニューカマー二世世代の女性たちが親たちから厳しく性の管理をされること、また特にシングルマザー家庭の場合は様々な資源が少ない中で、密接な母娘関係が築かれやすく、その中で出身国の文化継承が行われやすいことが明らかとなった。二世世代の男性と女性とでは家族との関係が異なることが示唆されるため、かれらの社会統合を支援する場合にはこうした違いを踏まえる必要がある。また、親の出身国の伝統的なジェンダー規範や日本社会における外国人女性へのステレオタイプが二世世代の女性の生きづらさを生みだしているため、こうした要因を少しでも取り除くことが喫緊の課題である。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to analyze the issues faced by the second generation of newcomers who grew up in Japan from a gender perspective. Semi-structured interviews were conducted with about 20 young people, mainly of Filipino and Thai descent, as well as with 20 members of the first generation, who are influential in their personal development. It became clear that the second generation of women were subjected to strict sexual control by the first generation due to the stereotype of foreign women in Japanese society and the gender norms of their country of origin. It was also suggested that in single-mother households, mothers often raise their children within the ethnic community and thus actively pass on their culture.

研究分野：教育社会学

キーワード：エスニシティ ジェンダー ニューカマー 二世世代

## 1. 研究開始当初の背景

1990年代以降急増したニューカマーの子どもに関しては、学校適応や言語習得、不就学、進路形成についてなど、これまで多くの研究蓄積が積み重ねられてきた(たとえば、志水・清水, 2001; 宮島・太田, 2005)。近年では、かれらが青年期、壮年期を迎えたことを踏まえて、大学進学や就労に関する研究、エスニック・コミュニティにおけるかれらの自立的な活動に関する研究も行われ始めている(児島, 2008; ダアノイ, 2017; 津田, 2017)。一方、日本の移民第二世代研究においては、ジェンダーの視点が欠落していることが指摘されている(額賀, 2016; 藤浪, 2017)。第一世代に関しては、エンターテイナーとして来日したフィリピン人女性を主な対象として、女性移民がおかれた搾取構造や彼女たちに付与されるステレオタイプに関する研究が多く積み重ねられてきた(たとえば、伊藤, 1992; 笠間, 2002)。しかしながら、第二世代については最近になってようやく進路形成や学業達成に関してジェンダーの視点から分析した研究が行われつつあるものの(額賀, 2016; 藤浪, 2017; 坪田, 2018)、まだ端緒にすぎたばかりであり、その蓄積は多いとはいえない。

移民政策が不在の日本において、今後あるべき政策の方向性を示すためには、現状の移民の生活世界をつぶさに明らかにすることが重要である。ニューカマーの若者の生活世界がジェンダーによってどのように異なっているのかを明らかにすることは、かれらの統合政策を考える上でも必要な作業であると考えられる。

### <参考文献>

- ダアノイ, メアリー・アンジェリン, 2017, 「多元的主体としてのフィリピン・ジャパニーズにおけるアイデンティティの具体化」佐竹真明・金愛慶編『国際結婚と多文化共生—多文化家族の支援にむけて』明石書店, 143-166頁。
- 藤浪海, 2017, 「ブラジル系移民コミュニティと第二世代男性の進路選択—横浜市鶴見区の学習教室の事例から」『移民政策研究』9号, 現代人文社, 58-73頁。
- 伊藤るり, 1992, 「『ジャバゆきさん』現象再考—80年代日本へのアジア女性流入」伊豫谷登士翁・梶田孝道編『外国人労働者論』弘文堂, 293-332頁。
- 児島明, 2008, 「在日ブラジル人の若者の進路選択過程—学校からの離脱/就労への水路づけ」『和光大学現代人間学部紀要』1号, 55-72頁。
- 笠間千浪, 2002, 「ジェンダーからみた移民マイノリティの現在—ニューカマー外国人女性の Kategorization と象徴的支配」宮島喬・梶田孝道編『国際社会4 マイノリティと社会構造』東京大学出版会, 121-148頁。
- 額賀美紗子, 2016, 「フィリピン系ニューカマー第二世代の親子関係と地位達成に関する一考察 エスニシティとジェンダーの交錯に注目して」『和光大学現代人間学部紀要』9号, 85-103頁。
- 志水宏吉・清水睦美編, 2001, 『ニューカマーと教育—学校文化とエスニシティの葛藤をめぐって』明石書店。
- 坪田光平, 2018, 「中国系ニューカマー第二世代の親子関係とキャリア意識: トランスナショナルな社会空間に注目して」『国際教育評論』14号, 東京学芸大学国際教育センター, 1-18頁。
- 津田友理香, 2017, 「日比青年教育プログラム(JFYEP)とフィリピン系成人女性による「ゆるやかなつながり」の試み」佐竹真明・金愛慶『国際結婚と多文化共生—多文化家族の支援にむけて』明石書店, 167-200頁。

## 2. 研究の目的

ジェンダーによる親の教育意識・教育戦略の違いの解明。  
第二世代の学業達成、エスニック・アイデンティティ形成に影響を及ぼす親の教育意識、教育戦略を明らかにする。子どものジェンダーによって親の教育意識、教育戦略はどのように異なるのか、あるいは異なるのかを聞き取り調査をもとに明らかにする。

第二世代の学業達成とエスニック・アイデンティティ形成過程におけるジェンダーの影響の解明。

ジェンダーによって第二世代の学業達成とエスニック・アイデンティティ形成に違いが見られるのか、男女間を比較することによって明らかにする。その際、親、学校、仲間集団、エスニック・コミュニティなど多様なアクターとの関係性を重視しながら分析を行う。

ジェンダーとエスニシティに関する日本のニューカマー第二世代独自の課題把握。上記2点の問いに対して、他の国に移住したフィリピン系移民との比較検討を行い、日本のニューカマー第二世代独自の課題を浮かび上がらせる。ホスト国主流文化におけるジェンダー規範がフィリピン系移民第二世代に与える影響を分析すると同時に、受け入れ社会におけるフィリピン人に対するジェンダーバイアスが第二世代の学業達成、エスニック・アイデンティティ形成に及ぼす影響についても考察する。

### 3. 研究の方法

研究期間を通じて日本に暮らすフィリピン系、タイ系を中心に第二世代22名、第一世代20名に対して半構造化インタビューを行なった。また、対象者たちが通うエスニック教会やホームパーティーなどにも参加し、継続的なフィールドワークを行なった。さらに、日本に暮らすフィリピン系との違いを明らかにすべく、2018年にはイタリアでフィリピン系移民に対するインタビュー調査とフィリピン系移民を支援するアソシエーションや教会の参与観察を実施した。

### 4. 研究成果

ジェンダーによる親の教育意識・教育戦略の違いの解明については、フィリピン系母娘を対象に性の管理という点から分析し、学会発表を行い、また論文として発表している。母親たちは娘に対してより干渉する傾向にあることを明らかにしたが、その背景には1) フィリピン社会の性規範、2) 親戚やエスニック・コミュニティにおける早期妊娠、3) 在日フィリピン人女性向けられるステレオタイプがあった。特に重要なのは、日本社会に根付いているフィリピン人＝性的に奔放というイメージを払拭するため、またはそうしたイメージから娘たちを遠ざけるために娘たちの性を管理しているという点である。

このような母親からの性の管理に対する娘たちの対応は準拠集団とする仲間集団とフィリピン文化の継承のあり方によって異なっていた。ただし、準拠集団となる仲間集団は複数ある点に留意が必要である。対象者となった娘たち同士で作られる幼なじみ集団もまた彼女たちの準拠集団となる。また、母親たちも含んだ世代間閉鎖性のあるネットワークが相互監視を促し、娘たちに性規範を遵守させたり、母親以外のメンバーが仲介役となって母娘間の緊張関係を緩和する様相も見られた。一方の準拠集団で共有される価値規範をもう一方の準拠集団が相対化することもあり、準拠集団を複合的に捉える視点を持つことの重要性が示唆される。

第二世代の学業達成とエスニック・アイデンティティ形成過程におけるジェンダーの影響の解明については、タイ系を対象にその分析結果を学会で報告し、論文にしている。タイ系はフィリピン系と同じく第一世代に女性が多いことが特徴であるが、これまであまり研究の対象とされてこなかった。タイ系のシングルマザーたちは来日後築き上げたタイ人女性同士のエスニック・ネットワークを利用しながら、生活の安定を図ったり、子育てを行ったりしていたが、教育戦略を行うにあたってエスニック・ネットワークは重要であり、母親たちはエスニック・ネットワークのメンバーと共に子どもの教育に関わる様々な選択を行っていた。特に、タイ文化を子どもに継承させるにあたっては、エスニック・ネットワークが非常に有効に機能していた。第二世代の娘たちは、密接な母娘関係のもと、女性化されたエスニック・ネットワークに組み込まれていくこととなる。

一方、親からタイ語やタイ文化を継承しているにもかかわらず、タイ系シングルマザーのもとで育つ第二世代たちのタイ系としてのエスニック・アイデンティティは希薄であった。エスニック・ネットワークからもたらされる情報や同胞同士のつながり、相互扶助を求め、対象者たちが暮らす地域にはタイ人が集まるが、タイから来た新規移民との違いによって、第二世代たちは自身のエスニック・アイデンティティを弱める傾向にあったのである。また、学業達成との関係で言えば、同質的なエスニック・ネットワークは学業達成を促しにくいという先行研究の指摘通り、類似した社会階層のシングルマザー同士で作られたネットワークに組み込まれているタイ系第二世代は学業達成がしにくい状況に置かれていた。

ジェンダーとエスニシティに関する日本のニューカマー第二世代独自の課題把握については、新型コロナウイルスの感染拡大により、予定していた米国、英国での調査は実施できなかった。ただし、イタリアのフィリピン系移民に対する調査からは、日本で暮らすフィリピン系との違いが示唆された。イタリアの場合、家事労働者として移民した者や先に移民していた家族に呼び寄せられる形で移民した者が多かった。そのため、エンターテイナーとして来日した女性が多かった日本にあるようなフィリピン人女性＝性的に奔放というステレオタイプはなく、受け入れ社会のまなざしが異なっていた。しかし、第二世代

の性の管理については日本で暮らすフィリピン系と同様に厳しく行うという。その背景には、フィリピン本国におけるジェンダー規範があった。これに対して、男女交際等について積極的な若者が多いイタリア社会に同化しているフィリピン系第二世代たちは親のジェンダー規範とイタリア社会とのジェンダー規範の狭間で葛藤を抱えていた。

研究を進めるうちに第二世代だけでなく、第一世代が抱えるジェンダー葛藤についての分析も必要だと判断し、当初の計画にはなかったが、日本で暮らすフィリピン系第一世代の夫婦に対してインタビュー調査を実施し、その分析結果を学会で報告している。フィリピン系の場合、女性のほうが日本で仕事があるため、妻が先に移住し、その後夫をフィリピンから呼び寄せるといったパターンも少なくない。また、妻のほうが稼得者となり、家計を支えている場合も多い。こうした状況下で夫は男性としての地位が低められることになるが、エスニック教会に積極的に関与したりするなど、男性としての地位の回復の戦略をそれぞれにとっていることを明らかにした。フィリピンでは女性移民が多いため、こうした状況は日本に暮らすフィリピン系夫婦のみならず、様々な国で起こりうる。また、妻が海外へ出稼ぎに行き、夫がフィリピンに残る場合には様々なジェンダー葛藤が生まれうる。今後は移民夫婦間に生じるジェンダー葛藤について様々な国における比較検討を行いたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 三浦綾希子	4. 巻 12
2. 論文標題 第二世代の性の管理をめぐる母娘間の交渉－フィリピン系移民を事例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 移民政策研究	6. 最初と最後の頁 165-181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦綾希子	4. 巻 17
2. 論文標題 エスニック・ネットワークの中で生きるタイ系移民の親子たち－シングルマザー家族に注目して－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 多文化関係学	6. 最初と最後の頁 19-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 三浦綾希子
2. 発表標題 タイ系移民の教育戦略と文化継承－移民ネットワークとの関わりから－
3. 学会等名 日本教育社会学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三浦綾希子
2. 発表標題 移民家族におけるジェンダー関係の葛藤－在日フィリピン人男性を対象に－
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三浦綾希子
2. 発表標題 ジェンダーとエスニシティをめぐる親子間の交渉－フィリピン系親子を事例にして－
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------